

第16回例会 2022.3.9 (水)

■出席率 会員68名中50名出席73.53% 修正55名 80.88%
メイクアップ5名

◆会長挨拶 一條 浩孝 会長

約束を守ること、嘘をつかないこと。私たち日本人はそう教えられて育ってきました。しかし、約束を破ること、人を騙すこと、人を殺めることを平然と行ってしまう政府が、この世に存在します。私たちの価値観とは全く相容れるものではありません。しかし、こうした正反対の価値観を持つ国と私たちは同じ地球上で生きていかなければなりません。理想論を語るだけでなく、何が必要でどう行動すべきなのか、日本も変わらなければならない問題だと思います。



約束を守ること、嘘をつかないこと。4つのテストにあるように、当然ロータリアンにも求められているものです。幸いウクライナにもそしてロシアにもロータリークラブがあります。双方のロータリークラブによって私たちと同じ価値観を共有できる国となるよう、長い長い年月を要することとは思いますが、成し遂げていただきたいと願っています。尚、毎日見るに堪えない報道が続いておりますが、ウクライナへの支援につきましては、本日の理事会で審議し速やかに対応していきたいと思っております。

約束を守ること、嘘をつかないこと。日本人として当たり前と思っていたことですが、残念なことに国の内側から崩れている状況が見られます。またしても企業による不祥事が相次いでいるということです。直近数か月だけでも、不正車検、産地偽装、排ガスデータの改ざん、株価操縦、などが起きています。

これを見るにつけ、他人事で片づけるのではなく、私たちのなかでもこのようなことが潜んでいないか見つめ直してみる必要があると感じています。悪習が当たり前のことにな

ってはいないか。不正なことなのに「必要悪」などとして正当化しているようなことはないか。今一度私たち自身も振り返ってみる必要があると思います。

まん防明け、よい話題が少ないですが、最後に気を取り直して本日の例会・会員スピーチについてご紹介させていただきます。お一人目が菊地和宏会員によります『ちょっと楽な生き方』、お二人目が横山りつ子会員によります『奉仕と出会いで広がる人生』、となっております。お二人には準備はしていただいていたものの例会が中止となってしまう、大変長くお待ちいただくことになってしまいました。今日はどのようなお話をお聞かせいただけるのか、とても楽しみにしております。

◆地区大会表彰

昨年11月7日行われた地区大会において、当クラブの会員も多くの方が表彰を受けました。代表して、91歳以上会員として表彰された三浦善治会員に一線会長から記念品が渡されました。

表彰者（敬称略）

（財団）

ベネファクター	〇 沢俊樹	鈴木洋子
ポールハリスフェロー	安斎常克	
マルチプル		
ポーロハリスフェロー	斎藤ミヨ (PHF7)	佐久間功 (PHF7)
	武藤正隆 (PHF6)	宍戸清和 (PHF6)
	大野順道 (PHF5)	渡辺勇 (PHF5)
	国井元 (PHF3)	松崎弘昭 (PHF3)
	鈴木洋子 (PHF3)	尾形博幸 (PHF1)
	菊地和宏 (PHF1)	



（米山）

メジャードナー	大橋廣治（18回）	吉田和義（10回）
米山功労者	黒羽好夫（9回）	三浦善治（8回）
（マルチプル）	野地利雄（5回）	林克重（5回）
	宍戸清和（4回）	丹治洋子（4回）
	本田光男（3回）	菅野良二（3回）
	大野順道（3回）	高橋和之（2回）

新米山功労者 国分秀夫 喜古勝弘

〈クラブ表彰〉

ロータリー財団寄付表彰

（盾）	年次寄付・恒久基金 第2位
	会員一人当たり年次寄付額 第2位

ロータリー米山記念奨学会

(感謝状・盾) 4千万円達成クラブ
寄付総額第3位
会員一人当たり年次寄付額 第5位
米山功労クラブ (第30回 第31回)

地区アクション表彰

クラブ会報コンテスト 優秀賞
公共イメージ工場活動賞 優秀賞
(個人表彰)

永年在籍50年 鈴木恒昭 (盾)
永年在籍30年 浅倉俊一 (盾)
91歳以上会員 三浦善治 (記念品)
感謝状 ♪ 沢俊樹 (賞状 記念品)

財団・米山表彰 (敬称略)

ロータリー財団表彰

ベネファクター 林克重
ポールハリスフェロー 笠雅樹
マルチプルポールハリスフェロー 植木洋司 (PHF7) 喜古勝弘 (PHF4)

米山功労者表彰

第11回メジャードナー 吉田和義
第4回マルチプル 菅野良二

◆誕生祝 親睦活動委員長 齋藤弘之委員長

蔓延防止措置により休会が続いていたため1月から3月の誕生日を迎えられた会員の方々に誕生日祝いが手渡されました。齋藤委員長から同じ誕生日の有名人の方々と共に紹介頂きました。お誕生日おめでとうございます。

- 1 月 紺野 仁昭会員、渡邊 和裕 会員、
- 2 月 齋藤 浩会員、横山 りつ子会員、鈴木 光一会員
- 3 月 渡辺 勇会員、宍戸 清和 会員、藤橋 進一郎会員、鈴木 洋子会員、高橋 勇雄会員
齋藤 高裕会員、一條 浩孝会員、八島 隆志会員、弓田 智之 会員



◆ロータリーの読みどころ ロータリー情報教育委員会 佐久間功副委員長

佐久間副委員長からロータリー特別行事及び月間の説明がありました。今月は「水と衛生月刊」で第 2530 地区の地元の水質保全活動の記事が掲載されています。

また、次期、女性初 R I 会長を努めるジェニファー・ジョーンズ会長エレクトの記事の紹介がありました。一読を！

第 2580 地区 若林英博ガバナー（東京麹町 RC）の「奉仕の転換点」の記事も紹介され、我々福島南 RC との東日本大震災の支援を通して、姉妹クラブ締結に至り、現在も続く友情の証となっていることが紹介されました。



◆会員スピーチ 1 菊地和宏会員 「ちょっと楽な生き方」

私は、接骨院を経営しております。職業は柔道整復師、昔は「ほねつぎ」と言われました。専門は骨折、脱臼、捻挫などのケガですが、最近では交通事故のムチ打ちや、ぎっくり腰、五十肩に加え、心の骨折や心の冷え、心のゆがみ等々、多岐に渡る相談も多く、何でも屋さんになっているのが実情であります。糖尿病、高血圧、不妊症や花粉症など困った症状をお持ちの方の共通点は、皆、真面目であるということです。

多くの患者さんを診ていると、極端な表現ですが、「真面目をやめれば病気は治る」とさえ思っています。

私の今の役目は、そのような真面目な患者さんをいかに笑わせるかという役を担っております。



昭和 57 年より、約 40 年近く現場におりますが、私の仕事の基礎となっているのは、住み込み修行と現場の患者様から教わった事であります。

大学、専門学校と自由を謳歌してきた私は、住み込み修行に入ると同時に「衣・食・住」そして、金銭、時間、空間などの自由は全く無くなりました。修行に入り、約 1 ヶ月で体重が 12 kg 程落ちました。手っ取り早いダイエットは、運動でも食事でもありません。私のおすすめは住み込み修行、つまり、気を使うことでもあります。

当時、師匠に仕事の質問をすると、「どこ見ているんだ？何見ているんだ？見ていたら分かるだろう！」と言うのが、師匠からの答えでした。師匠のやる事為す事の先読みと、深読みがどれだけできるかというのが、日々の目標でした。

ある時、「菊地、お前は人を診る事ができるか？」と言われ、「はい、毎日見えています」と答えると、「馬鹿やろう！人となりを見抜くことができるかということだ！」と言われました。今でも、患者さんを診る時は、先ず人となりを診る事を常に心がけております。

度々、「馬鹿やろう、馬鹿かお前は！」と叱ってくれる人がいた事は、とても有り難い事でもあります。頭が固かった頃は、叱られる度に理不尽だと思い、少し歳を重ねたら、ありがたいと感じるようになりましたことごとく私の固かった頭を割ってくれたその師匠もつい先週、永久の旅路に旅立ちました。叱ってくれる人がいなくなるというのは、本当に淋しいものです。

さて、私の仕事場ですが、朝から晩まで、何かしらの不調や痛みを抱えた方々がいらっしやいます。

「どこに行っても治らない、原因がわからない、困った、参った、どうしよう」などと、ネガティブな言葉を使う方々やってきます。「病気」という文字は、気が病んでいると書きます。実際、病んでいるのは体ですから本来は「病体」と書かなければならないのに「病気」と書きます。事の発端は、「困った、参った、どうしよう」という、気もみ性、心配性がそもその原因と思われれます。

また「怪我」という文字は我が怪しいと書きます。心ここに在らずという事です。

こちらもまた、あれもこれもと、気をもみながら過ごしているため、足元が目に入らず、転んだり、ぶつかったりするという事で怪我という文字になったものだと思います。

日本人は、子供の頃から何かにつけ親から「頑張れ」、学校に行っても「頑張れ」、社会人になっても「頑張れ」、病気になっても「頑張れ」死にそうな時も「頑張れ頑張れ」と、頑張る事が素晴らしいと言われ続けてきました。

そこで、一人位「頑張らなくなつたっていいんだよ」と言ってくれる人がいてもいいのかなと思う訳です。実は私は42歳の時に真面目をやめました。

私の座右の銘は「いい加減で適当」です。自分にとって何事も「良い加減、適度に」という事です。真面目な人は、こうやるべき、こうやらネバという「ベキベキ、ネバネバ」人間になってしまうようです。それに対し、「しょうがない、しょうがない」と簡単に諦める事も実はとても大事だと思うのです。「あれも大事、これも大事」と何でも手に入れて離さない人は、病気も大事に抱え込んで手放さない傾向があるようです。「しょうがない、しょうがない」と簡単に切り替え、諦める事ができる人は、病気も簡単に逃げていくようです。ここで皆さんに実験をして頂きます。

自分で拳を作り、自分の頭をコンコンと叩いてみて下さい。どんな音がしますか？

「ゴツゴツ」と鈍い音がする人？

「カーン」といつまでも音が鳴り響く人？

「ゴツゴツ」と鈍い音がする人は、スイカのように中身が一杯詰まっている人です。

「カーン」とお寺の鐘のようにいつまでも音が鳴り響く人は、頭の中がからっぽの人です。拘りやベキベキ、ネバネバなどの凝り固まった感情を簡単に手放してしまうと、頭の中は空

っぽになって、軽くなり、カーンというお寺の鐘のように響き渡るようないい音がする頭に変わるのです。

周りのロータリアンを見渡して下さい。

ベキベキ人間、ネバネバ人間、拘り人間はいませんか？どうか、肩の力を抜いて下さい。無くてもいいプライドや拘りを手放してみてください。できない事は、しょうがないと簡単に手放してみてください。きっと楽になるはずです。

ベテランロータリアンの皆様を見ていてわかった事があります。肩の力を抜いているということです。肩肘張らず、ロータリー活動を楽しむ事が生涯ロータリアンを続ける秘訣なのだと思います。それこそが超我の奉仕に繋がるのだと思います。

チベット仏教のダライラマは、幸せになる原点は許しだと解いています。

許す事とは無理して相手を許すのではなく、相手を許すことで、拘っていた自分の気持ちも楽になる事ができる、それが許しだと言っています。

人と人、国と国の関係で最も大事な事は「許し」だそうです。

そして与える事、物を配る、言葉を配る、心を配る事だそうです。

「傍を楽にする」、「傍を楽しませる」すなわち、周りの人を喜ばせる事がはたらくという事です。ロータリーの五大奉仕は、正に傍を楽にする、傍を楽しませる事を形にしているものであります。

コロナが終わったら、また、手に手、輪に輪、手を取り合って、是非また、この福島南ロータリークラブを楽しんで続けて行きたいと考えています。

皆様、今後とも宜しくお願い致します。

◆会員スピーチ2 横山 りつ子 会員 「奉仕と出会いで 広がる人生」

奉仕と出会いで 広がる人生

令和4年3月9日

横山りつ子

1. 上海から風が吹いた

26年前のある日、夜10時過ぎに突然飛び込んできた男の子がいました。アルバイトさせて下さい！！

その当時は外国人の雇用に抵抗があり迷っていると、調理長がテストをしようと言い出し、賄のとんかつのキャベツの千切りをさせました。その買志浩くんは現在上海で電子部品工場経営し日本の企業と取引しています、幕張の展示会の後福島に里帰りしました。



2. 福島ベトナム友好協会との出会い

買君と余ちゃんがきっかけで日本語学校からアルバイト学生の紹介があるようになり中国人とベトナム人でした。みんな経済的に困難な家庭の子ども達でした。彼らのおかげでベトナム友好協会に入会することになりました。彼らはとても優秀で第一分区の米山奨学生も沢山いました。

トウちゃんは筑波大学のマスターコースを終了し現在はハノイで保育園を運営しています。里帰りで東RCを訪問しました。



チャン・テ・チャンは
おじいちゃんが好き



我が家にホームステイ
していたティエムは、毎年家族で里帰り



レ・タン・ティン・ブー君は今、三重県にある国内有数の
ジャパンマリンユナイテッド造船会社の技術エンジニア
去年の春に初めて里帰りしました。



ネパールのサムゾナは化粧品
会社に勤務(美人です)
早く里帰りできるのを待っています



アントウちゃんは
大学教授の夫とアメリカ在住

ナアちゃんは岩井証券勤務の夫と神奈川です。
本人はオンワード樺山に勤めていました。
これまで何度も里帰りしました。

3. 東日本大震災で知った暖かい心

この時は多くのベトナム人がアルバイトしていました。突然の地震で不安を抱え福島大学ベトナム人留学生の会会長であるブー君のアパートに集まり、肩を寄せ合い生活していました。一日に何度も私のところへ来て不安を覗かせ、本国からの指示を待っていました、やっと大使館からバスが迎えに来て、伊丹空港経由でハノイへ帰国しました。しかし彼らは5月から6月にかけてみんな日本に福島に戻ってきました。

その後、環境省から広報誌に留学生のインタビューを載せたいと言われました。

どうして原発被害のあった福島に来たのか
心配はなかったのかなど、その内容は JR 東口の
除染プラザに掲示されました。

ガーナから来たマーサ・コムソンは着物が
大好きで特にこの着物が気に入ります
昨年クリスマスに婚約者のフランクと里帰り



現在はマーサは愛知県で保育園の保育をしており英語教育担当とのことです



4. ロータリーと関わり

米山奨学生となった人が多く、ベルギー大使館での
福島マルシェではロータリアンと交流を深めました。



アウアふくしまで相馬野馬追い見学
とても暑い一日でした。

故菅原パスト会長とあずま運動公園で



ステーブとジャッキー寺田夫妻と



台湾の米山奨学生りんちゃんと当時の鈴木会長ご夫妻



5・それぞれに福島を楽しんで



おとなしいハンガリー人のゴタは
土湯温泉でこけしクイーンに選ば
れにっこり



アオザイファッションショーでは
ヨーロッパ人も日本人もモデルに



ベラルーシの
ナスタッシャ
は古着で買った総振袖が
お気に入り

6 家族

ベラルーシ、ドイツ、ベトナムから家族がやって来ました



福大交換留学生との出会いで知った福島を思う心、福大のマクマイケル ウィリアム助教は「アウアふくしま」のプログラムで留学生に原発事故後の正しい福島の情報を探し、自国へ発信するプログラムを指導しています。だからこそ安心して福島に家族を呼べるのです。

みんな同じ人間です。考え方にその国ごとの違いがありますが、親を思い行動するのは同じです。



そして自分の為に、家族のために留学しました。ありがとうみんな、あなた達と出会えて本当に良かった笑顔で働いてくれてありがとう。





山水荘で日帰り温泉、こけしもつくりました。



ホームパーティーではそれぞれの国の料理を持ち寄って



コロナの影響で卒業式が出来なかったので私の着物と袴で皆でお祝い、外人を引き連れ街を練り歩き注目の的、いい卒業記念でしたね。





クリスマスミニパーティー



わらじ祭りは汗だくで踊りました。



コロナ禍の中、野村萬作の狂言は
楽しかったね。
6人限定でしたけど、帰りは回るお寿司
屋さんで満足しましたね。私にとり人
生2度目の回る寿司でした
ほんのお寿司とほんの焼き肉をご
ちそうすると約束しましたので、ほん
の焼肉は食べに行きましたが、ほん
のお寿司はあなた達の食欲ではお財
布が寂しくなるので、人数制限します。

こうして振り返ると、様々な思い出がよみがえります。子供だったあなた達が考え方も行動も大人になり、卒業後に届いた手紙はすばらしい文章で思いがつづってありました。東日本震災や昨年2月の地震の時、そしてこのコロナ禍でも心配するメールが届きました。そして私の誕生日にもお祝いのメールが届きます。奉仕をしていたつもりが、本当は奉仕を受けていたと思います。

採用面接では、嫌いな食べ物やなじまない日本の習慣、親や友達はあなたの事を何と呼ぶのと聞き、その愛称が仕事場での名前となり親しんで行きました。日本人学生とも交流が深まり福島生活を楽しくしてくれたと思います。

そして何年か過ぎるとファッションに変化があるようになります。特に社会人になり里帰りしたとき、きちんとしたファッションで現れるのを見て生活にゆとりができ良かったと安心します。日本人も留学生も、「おりおり」で働いてくれてありがとう。感動を与えてくれてありがとう。こうして私の人生は職業奉仕により、とてつもなく広がりました。この仕事に携わることが出来たことに感謝しています。



◆今後の日程

I M 2002. 3. 19 Z o o m視聴

次回例会 第16回 2022. 3. 30

会員スピーチ	安齋 常克 会員	「日本の伝統・文化と建築施工」
	渡辺 勇 会員	「野外作業とゴルフで健康維持」
	河谷 元 会員	「大震災から現在までをふりかえる」